

難病コミュニケーションシンポジウム in 東京

コミュニケーション支援体制は構築できるのか？ 各地域の実例を通して考える！

ALS になると徐々に難しくなる言語によるコミュニケーション。

でもそれを支えるヒトとモノがあることを知ってほしい。

地域の特性をとらえながら、コミュニケーション支援の輪を広げるたにできることを一緒に考えてみませんか。

シンポジスト

- 「アイケアほっかいどうと支部の連携によるコミュニケーション支援の実際」
アイケアほっかいどう 佐藤美由紀・日本 ALS 協会理事北海道支部長 /ALS 当事者 深瀬和文
- 「行政管轄によるコミュニケーション支援と見えてきた課題」 仙台市障害者総合支援センター理学療法士 後藤美枝
- 「山梨のコミュニケーション支援の形について」
甲州リハビリテーション病院リハビリテーション部部长 関谷宏美
- 「伝わる喜び、理解する喜び、当事者として岐阜県のコミュニケーション支援を考える」
前FC岐阜社長/㈱まんまる笑店代表取締役/ALS当事者 恩田聖敬
- 「近畿のコミュニケーション支援の現状と私の今」
日本 ALS 協会近畿ブロック会長 /ALS 当事者 増田英明
- 「島根の今、一連のコミュニケーション支援活動を経て変化したことと課題」
島根大学医学部附属病院作業療法士 森脇繁登
- 「佐賀県の入院時コミュニケーション支援、私が快適に過ごせる背景にあるもの」
日本 ALS 協会佐賀県支部 /ALS 当事者 中野玄三

プログラム

- 13:00 - 13:05 開会の挨拶 日本 ALS 協会
(事務局長 平岡久仁子)
- 13:05 - 13:10 コミュニケーション支援事業の概要説明
- 13:10 - 15:15 シンポジスト発表 < 間 20 分休憩 >
- 15:15 - 16:05 ディスカッション
- 16:05 - 16:10 総括 (日本ALS協会会長/ALS当事者 岡部宏生)
- 16:10 - 16:15 閉会の言葉 (日本 ALS 協会コミュニケーション支援委員長 /ALS 当事者 深瀬和文)
- 16:15 - 16:45 交流会

※シンポジウムのディスカッションで話題になった内容やアンケートに寄せられた質問については下記ブログにて Q & A 形式で掲載予定です。
<http://jalsacommu.hatenablog.com/>

コメンテーター

- 島根大学 伊藤史人
- 厚生労働省 照井直樹
- …他予定



開催概要

- 日時 2017 年 1 月 29 日 (日) 13:00-16:45 ※受付開始 12:30 ~
- 会場 東京国際フォーラム ガラス棟会議室 G701 (7 階) 定員 190 名
- 住所 〒100-0005 東京都千代田区丸の内 3 丁目 5-1
- 対象 ALS 等の難病コミュニケーション支援に携わる支援者・当事者・家族・関心のある方
- 参加費 無料
- 締切 1 月 22 日 (日) ※締切後の場合は、お電話でお問い合わせください。
- お申し込み メールにてお申込みください。
氏名・職場・職種・電話番号またはメールアドレスをご記載ください。
日本 ALS 協会コミュニケーション支援委員会
E-mail : als.komyu@gmail.com
- お問い合わせ TEL : 080-1894-1028 E-mail : als.komyu@gmail.com (担当 : 本間)

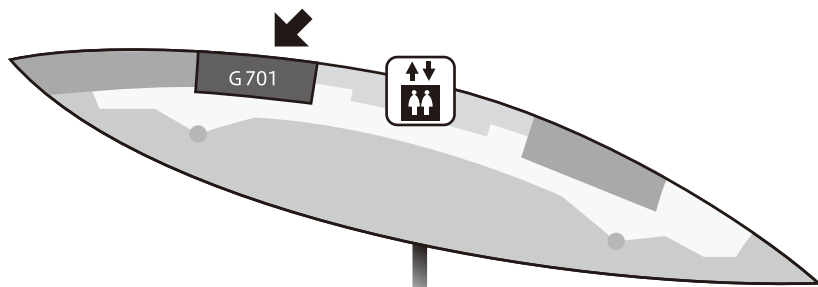


東京国際フォーラム ガラス棟会議室 G701(7階)

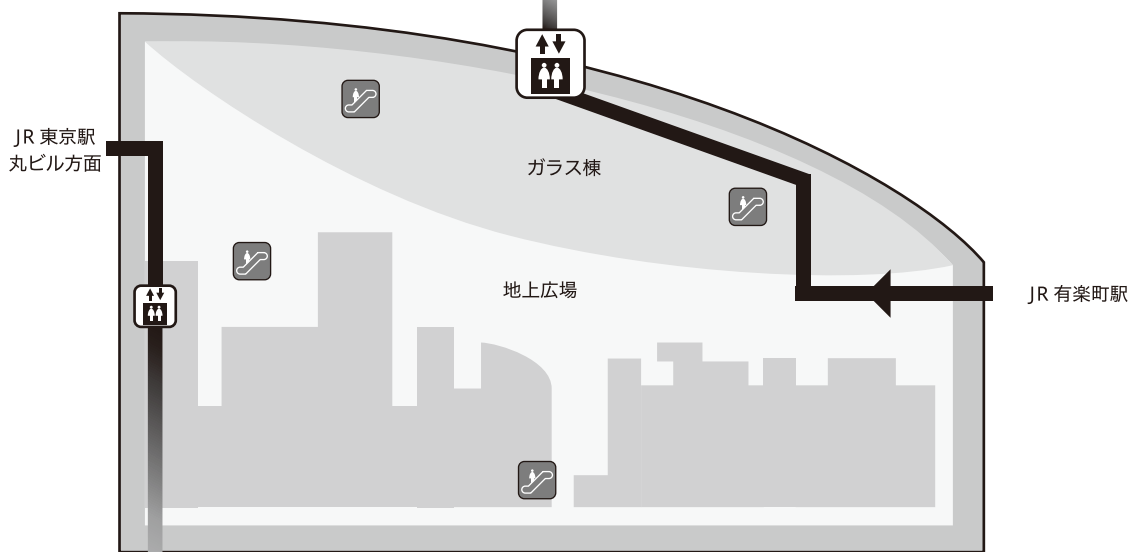
住所：〒100-0005 東京都千代田区丸の内3丁目5-1

各鉄道の駅、地下駐車場よりガラス棟のエレベーターを目指してください。

7階

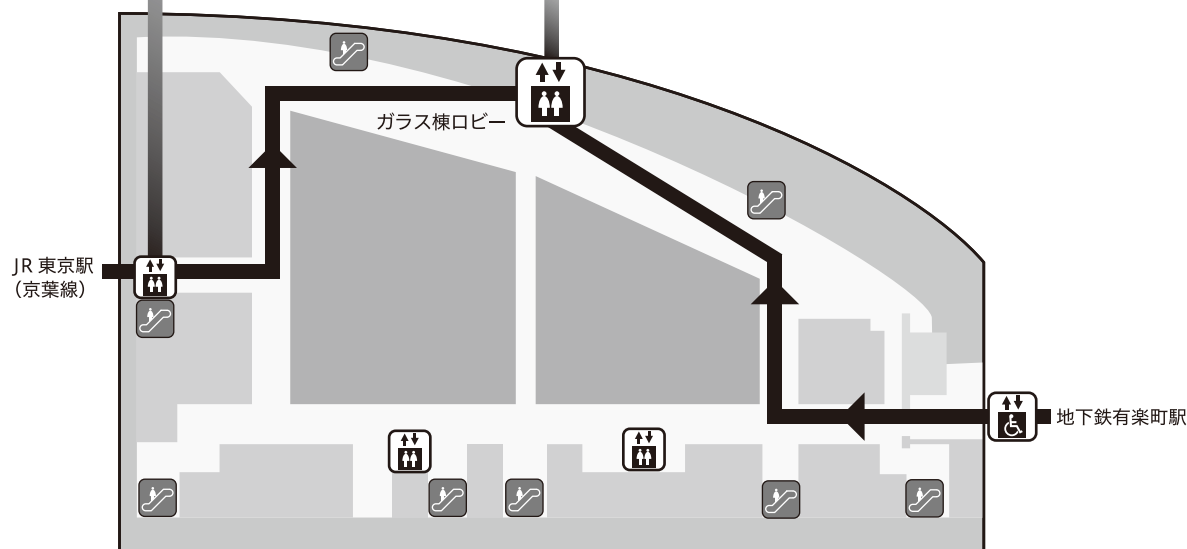


1階



※1階と地下1階はエスカレーターでも移動可能です。

地下1階



地下3階

